長生伏羲図

特別
ヘ13
3516
3

門へ13
3516
巻 3
特
昭和二十九年七月十日購求

伏本隠

三之巻

因縁

第一 祝言の重指合せて生涯の門出

因果廻る井戸車回りくて訳の名案

未来のまとそろふ牡丹のお大ら執心

仏の縁まと洗濯する訳くず懺悔

才二　不老ふ死の薬きいて来る仙人の名

一服さする方い異れ下の老はなぬ薬
飲てみく味いあまいるよ記加減れ寿命薬
一口づきあい苦ぶ代本ゆ中の悪い桃糸

才三　み童ごろれて死をういて神文

短冊の謎とけみくい兄の下ざろ
花とをぐめる茅屋はうこれ彩雲花
面ものの家程とひ旅してるる名の何

一　祝言の盃持合せて出孫の門弟

我人を害とし人ば別人又我を害すといろ。形なの幻ひをもつく。
おの人命と断所いその報逆にてそ身をたとる。神仏の罰れの
因果の理。乱の形よもてふふぶおく。おいば罪の出るにひとくこしむ
くひ今身に面てぱ悔す化ど甲斐ぞなさ。お願い方を去が慨
悔の病と変なろ我出すの接まの苦のうなさ洗ろ和解。耳をを
まして空メ程前のとんも知るずして拝ろ情報さるよおさめ。ろを空の
側により今の偏ついて拝ろ。ろうさ。ろうろ。ろをあさなつてそんろ迷
学ろ知るの仕芸のす伝れの切い仏ゆんぷ面ごの上品のりろう芸伝ぶ。
道のるにいてそ実してあろれぶ。ろうく流でるれい方ろまいんろ。
伝の切人習れの殊ぶるいをす人命の西観る聲掃のゆ独い地ろ毋

今更にてねつから妻のやうともいひも果ねば其頃ハ世が世で六万石の大身に仕へ付かずとも
わたくしこそ捨られまいとせつた娘そさから見ると馴染のあるさず懐中に入し守袋を
出し俺の此初からうを知らし仏の守り也。中紬もつけに男とのあかしにて
ておりますと顔をねいで人を見れバげにも今ハ出ず紙の内よの半ばのめぐ
里あへ親の縁さへふしぎ是れ命数を引き六万石変姫のこずへも勝つがたしハ
くと武者ぶがひとまの帰るそのきれ六万石丈服とひきかへふしぎのある
大ろかに云りやこずへ今此あるまでひとにぬすまれて後家先が武士ハ立ざしとて家来ハいふを忠カと
屋敷へつけて所の今手に深しうへや武士ハ立ざしとて家来ハいふを忠力と
せめて町人ぬさるハ此者へ入縁まえのうじ夫やのひとり娘くま網手ぬて。
そちをまうけし産後よ風をひかんで其方が母ハ十七の月立ざるうち身ゆき。
十七年あまりくせがぬ今まかずも孫が可りの婦のお前るにあやまハ縁を結びそれ
も足身の縁ハうらむせどお前の命さへ様お前なべ婦をひとせ母よりさ

さいはひ親ぢ孝行に中よくせよ。お前も嬉しと手をとらへ。侍がててくれよそて頼だ。
あゝそれハ情なき様てやさしいるやうな人の志をずぼ子の身としてを頼へせかしさる。
十悪五逆の大罪人ゆるして下されよ人の。コレ稍ぐ縁すそえぬゆゑを害ふ父の
悪とけして今ど情なき女と姉に任せて身をいかずこうとやばらりと仕おつ木端
うかりと所ゆるも今体を手細とやせぬべがつきそうするをバ手ねのよそ母の心の為すて
も又よそひと母の身にてかましく一と大鉄さるも所れの教を上うとんとこのひつかけ
ざと事訳れとまけるあらにやせいバいけうがあやまつ。縁へ所くろてさるぞの
与市義兵衛の古気親子。さるぞのゝ文の翌年毎が殿との人へ申れと二世の結びを
せし所の帯紐れの古情方中へ行く所へ持むとさる事ハ所を言。いや事どひよ一番どの。
ちと見て結びけしを又上なて様前の中の心くにあひ。今と仰ん志を頼べし
六万石まが今の身の上にてハいけつるまでうそもしこきの家の門おく
て様子しでいさんで出達まし母せと様家と

太肥の
まるぼろぶ
いっとや
ぶてんが
いうね
うそぎが
とーや
それハオヲ
おぢくうあ
くちきの中に
さんとんおんが
おちてあそく

ちがふ
ふいそ
ふ和紬の
ものもう
ぎっこで
ぢうんを
そんなの
こーーが
ぼきんよや
うんが
ぢうるぞ
大ぞん
ぼうくバ

頼いかゞひの外に隙どりて手も内に軍始りて与市ハ大将の御前にて
先陣とうけたまハりいさみいさんで敵の大将。大場俣野兄弟の内が首をとらんと
軍の中へ切入らんとせし東一の強き弓勢にて名にしおふ敵を
追てはひのが深入ありひたすらの敵俣野とかゝりて組んとせし所へ
たゞして長尾の新五新六兄弟の者も馳合せて与市にかゝりあつて俣野
が弟を引と助けさせ。かゝる所に与一が郎等文三家安ハ主君のゆく末を
ミすてゝ陣中をまもりて居たるが主君を俣野がうたんとするを見て
ふる弟をはなつて今ハ是迄と命をおしまんと大勢の敵の中へ分け入り命さ
捨て切まいらせしが。左沢家廣敵の中を切ぬけ弟にぬけてたまりやし。又
義家ハ今ハ海辺を討せ給ふと思ひ俣野とくんで組とめ立るが。
敵ハ大勢俣野をうたんとして家来ハ疲れて雑兵の手にかゝ
りバ大将の命ハ是までと切ぬけ命まてさぶらひ

人々を打る俣野ハ長尾兄弟を打て主君さもなくハ手向よおもハく
ふ命をもと主君に付記修すとかく股野にうたれて終に主の為めの敵。俣
野長尾ともにして岡部の敵とて大勢切るとて主人の手向にもなる
すして大将あまた噯げて土肥を見て藤沢浄寿の軍勢でも主君の形
見とおもひてハ志つる侍とでも首をとりて主君の名をとげんと思ひ
岡部へ入ても又主のさまぐ／＼るやうにて我名をあげんとてすゝみ出
おなじく主従る胆病者七才まで主の御恩にて身を立て暮し
すゝと討死する俣野長尾を討て主君の敵をゆるしてとくと見へ
もなげを追出され此ぞもなき命けなく主の御恩をわすれず
きみうされバ行末へも怨をつけ今をとて此の状を下されしとなん
主ひ文蔵が主の先陣をうけられし。主をたすけ合わすと聞け
終には先陣の附をも務めを立て結び詰を入てゐたれバ文蔵主安が

じゆ?のたるはんづけさせしハ。六太夫が娘をかゝへてよふまい役人の慰みにはひま
を延よりおくりしるすれバ。かの夜の歎を娘に知せ。夫文義に釆?にさせて。
いふ母伏て耐え。永くま婦に?べし。女の身なれバ?ゝ?をとるいがさの道じ。
くり?よわりぞ。ねそ夫への忠義に。かくハ六太夫も娘にめぐく?をさせ。
むこに望と打ちうさせらひまけ。二人の娘の命をかくいぞ。歎をうそせよ歎
の為親へつかいせ?と父義よ?いはせずてハかなはずと。父のいひ付といひ。され
もつせめて歎一人へぬた打わかせ。それほどうやけにまへ添しい母の恨をうけ。
なのざく妻婦よう?んと?ひつめゆく。おまへハ歎とうるせていはぐうーが
まへ御さに打て又さへ歎きしぱまけと娘がもやよ子ハ思ひが。おまへハい
まだ我まへの仕よれのおくぐうれ。ま?忠義と忘れてハ先を越て私が歎を打うふ
さふとハ礼義たゞべいらひ?くうんとぞ。それゆへつ?や?せてゆく。まへをおまへ
の為にれの仕妾をもある?んとぱうぶひのく?ふ?う。ど?うれし

むつれと親と知らずに病付られしハゆゑぞ。結ことやら私がくらうがゝる悲しさと計ゆか
ろしが身が私の親敵ども人ハおまへに家類もお侍ハいかでもつらさハ婦
れと知ても今の身にはふれも其わけと打ても思ハれかぬやまに添られ夫尼
おきやく此ままでおきさ母わやうとれのおのおいまで色さまざま暮ハでいはぐが
ぶんとさひあつやんがちまへハ歎を打せてれ夜比へまみさせあへと涙ぐうひ
て泣されバ親も涙とまなかればもつゝ拍られまうせて時に三浦の新南?置浅
玉の前おなよひかれば是は妾と目が出もれの先音香におがり?れたうおと
かれてはや優とらへられおほぐ鳥羽の事ありつかひ云付の
西房れとかもかくほな今や?の命?のさら歎もれのが越るされしを。儀
浅れの仕くずられの。おきふよ玉房れハ清?子。歎咄方と?て?ぞくやに
押よせ来る鳥羽の方へつかハして。継母ゆへよ歎の振へつかハされ。せるの人
のたうん?もろ?うきとそぼうれハと玉房姫ま仕立はむかひの命?ありへ

されてあるを流石にはてとて立て帰りてあずまやとこのやの
のきにぬしいてをの姫と今をかぎりとなさくとやあひのぞきなれども
まぼひ泣りあるを見れのは公入合ちぶゆるとをひが鼻にの毛穴へ入
れてどおりの宿所へ立ちれ奥のろく入ゆひ〻ぐをたてはるよ
のをかいも方ぐも人鼻にの毛穴へ入どを移まへつれて来ると立て方〻
よいをんなにぞ今をくて男性のをのお宿を出合拾ようにび帳の
面房姫いさるごの与市とをいゆ〻ま命もびがくび女姫とぬて立
ぬ方へ嫁入をるいを屋敷をあてのをとてをるをやをするなどの与市なのをそい
うし祝ばしめが弁当をする一番をとんて伺よきぐをるをとさるいをの無論
をとをるんを及ぼす面房姫よぬをとよのいをもをを。行をこの豆腐で弁当寝
所へつをとを拾ぬをとを月雪一わ出れいびを秋をこの地蔵に南
らむをををるく。与市一番嫁をを立て伺命のり来をとんゆをくるをを。

さんをのをるを方を。後のどをいをらびいをあびのるを者をを。乗思
いを者をの家へんいを毎のをるをををるのを分が宅へすいは姫ひをるぬび
物をを者ををいいをるをを。ま沢を通をれ拾ぬををるを行行いをら
よい分がるを方をんををををかんをつををを。同び拾る命をを。をの歌作弾を拾
以外が四をおをを死なが拾代をを与女の名をを沼をを分にをを生れも
おをを者ををおびを立て命をのをををるをを行をを人をを
が歌をを新中にををを。を大場が場下の伺ををの立をををををいををのいを人
場へ京を尾方へも高知の男をを世人の中をを出入ををををつれいを伺をのをを
人をを世を分をを中ををををを。をを市を新川を拾ををを
を者をを者を伺をを人をを出ををるが人をを中をを人をを。をを人をを
人をを世をおいををを立をを。をを人をを中をを人をを。をを人をを
をるをを人をを名ををおいをを人をを出をを立をを。をを人をを

市蔵とやらんいひけるきいたるばかり。実のこころをくわしていせずして。都て
ぬとあてやうる。西遠の所いかゝなんゆゑしらんと。うたがつゝ。
の後の跡をたづねうる。二て変眼をとりてとひき。我い国果の乃行にて果
ふる。西蔵ろう法とあがさんより。又牙ひと合せ。ろっさ彩ゑ面彩へゆき。
ゆるとてそくれたれてそれ彩ゑ彩の絵よいまさんあるべきとそと
さいごの行とてつゆまるあるてやう。又牙もろう絵ろうぶ先あるへのさ
るべき彩ゑ方へのをせつろう。ぶのるべとひそろに蒙ろ。ろたるるるせるす
せるへうしぎをにはまるをのと合せて。又牙い彩ゑ面彩へつれべらゆくゑ乃
意へ東土場ろげよ意の姫をとゆへ人感して祈願せり

(二) 不老不死の薬きいて求る仙人の事合

不死き命あり。富まえ天にあり。人間の寿命いかをのくべ月によりて定めき。
絵ろに蒙の姫の寿。天下とたるごろよりにぎりあひ。誠まと姫めるす

つけてもたゞ有待の中命のかぎりる事ばかりと歌さをひいろかりて道家にはい
不死の法を求てゆれ万象の宝祈となるんとゆるゆゑ徐福女成くいよ
二人の計策を姫の寿の長久絵を得ゆへて不死の薬を求る術をねろう
ぶとそれい寿かぎりをく恢ゆひて出ぬ人の絵ゆめるろのありとられ。一日
絵ろ考ゆよもろぶ大彩を抜させゆひて。道家へ不死の薬と求ていつい
されねされい大悟のこゝろ。薬ろかろう。考ろあまりにけきゆんれのを被をとゆ
て我為年四十二の大厄にあれう。考ろよりて彩ゑ不の引薬彩絵に大八
彩絵料とろう。長久命の彩とれ。ゆゑ人にてもゆゑ不死の薬あゆべ
今絵いろゆ絵ゆるべきが求ゆ事いゆまろ。ゆ方意と彩よ絵ても彩ゑとつゆ
でゆ中ゆるのとゆれゆ。絵ゆ厄年ゆれゆ。ゆまろると薬ゆにてひ
ゆれい寿社の四ゆ寿あるゆ絵薬医者ゆ。ゆ医者ゆるとゆろゆゆ
してゆ厄年ゆ絵ゆ医者にゆゆゆ寿ゆるとゆ人ゆ年ゆ薬ゆ我彩ゆ

うて祝とむかしよりしてあるこそ大分の出来とて是ごろ見たる人はすべて伝へぞ立
まいぜんて南部辺拝のつゝ三浦の大名百ちかくあれ共其せまる業とて松と
まつてうつくしと脇附とをやまずあるよふ不さのうとゆゑ山。南部石橋のかく
土肥のまつ義ゝ千年の新となりし仏人共其せの強業とて起りとれいくうしは
伊とそうとて是ごろ見ぐ見屋へ出越まてを出て出て出て出ては有をなされて出後きまずや
とやせい未親大きに怪ぶて強よまを得ることれ申ぐつてせしがうくそれの
く伝ふの山賊九十六ヶ所とてつき者もるゆ移ふたうの新とゆくけそ
ちうと見怪く行逝てすのわるはゝ生ちう今海ぐそのうる仏今行あゆく。
絵の中ゆ未とうらて逝てゆくゆ中に唯逝ひ有と又海うそ吹たり。
さあ海ゝ人ゝうさ山ふのぐうとて逝ふ七百も伝帝て伝人は出ひふ記
のまとうらてのまん用ふせよく俄よりひ出ゝ寄社をとけすゆ家まみく
つれてゆ指ゝう義強とうちのわり土肥の松と四ふてゆ逝の出さ三

いつ出にううぐゝ大き成伝本のあう成大海人伝て海ひ伝本とんよいうぐい
の新ゝ和あと追てひあうとう先ひ出ひうく伝本のうゝ内ゆかうれあるん。
入て松せとゆ和ゆて有に一面の内の松ゆ年と我んて有んと空の中入て
ちづくして出てゆにい橋福出ちんどゆ出ゆゆ中人の人もうれてゆさ小
面とゆ内ゆうゝ株の業とうけて出あれ伝のうこはゆゆ人を
うて強ゆんとうい強氣が松ゆ果眼ゆあて伝うゆ出ゆ一門と
はゆてゆうや歌の新ゆと分にうんゆうゆとうて押て松ゆ出ゆ出
追ゆけ行ゆうゆ先て人にうゆゆ中ゆ新ゆうれゆが今に新
ゆゆうゆいゆうゆの中うゆとゆて出てゆ面ゆ行ゆゆて今年の
強ゆ出ゆ尾見矛行ゆ面て衛追付見考ゆ人ゆこゆうゆ長ゆるゆれ
とゆ古ゆ我ゆいゆ行ゆゆ面ゆこの仏人ゆ不ゆるの業とゆ有ゆ いゆゆうゆと
新ゆゆれゆ行ゆゆ我ゆゆ行て同業行ゆゆゆゆゆて出ゆまゆ百

年ごろまでのあるかぎりのもろ方へ酒のつぎてあるてゆく法と返
てまゐるといへばいやさ分がそれはあるまいてまゐて。
そもそもそのかたちにはそれはそれとせうばさきをとりあつまりて一重ものと。
俗木の上に鏡をもち奉行よりんで大勢にてのこりけるを。家来いきごん
の殿へ。ごこ信濃。もたんを入れとそれ枕をよりてはまにとりいれば俗木の色
はかりさ。枕ぶくろ中ごまごつるんざ。俗ばんに分中に一ものあるをいれはあて
もごりいに合ごゆるとへいば信濃めあるゆめてされば分をもさゆれねばて
ある。西まの位のまろうれどいるのあるに分に人をその中さいるでへの七
ハへもかくれてあるまあ完ろうとまるこ家来よりけけ酒のあるしく合
うを。俗木のはうにはとへてれば室の中れひろさをうばはるそもも。
人のさんあまりゆるとかくれらるさ。枕ぶくろ化拙い枕ぶくろ二ん。七俗をと
つぎのつくかくれあれと。ゆくといい枕ぶくろ。秘くといい一家といひ。

枕ぶくろ妹婿ゑいは兄大湯のこうが来りて手紙の中ありて紙とゆうゆるゆ
こうそ安ろうねどゆとはいてあるふそのの隅よ光るものあるりゆ様ものの眼
のえそいあるざるとゆ刀を抜て切えいてついてそれいかさくとものあるまと。
拙いはものそいあるざと光りと長あてまとあるでそれば全稽の位
入ものそ。ざきに位れのはとのそ中ゆ拙と出てそれば結様ゆまあるの敵
るかう。開きそれば位のみ紙まるしゆ。そいゆ人はゆ来ゆはの本位
人のこあるの紙世まるあるゆ。俗ふるせよ枕そあて。兄家紙よ物せゆさんとやうそ
お門の拙ぶくとゆ人はてゆりゆでんのるねゆ世男。一門とそも拙れどゆるを世
俗ゆ。そいはあの合紙よ。ぱふ枕ぶくゆ平こ位ぶくと。拙ゆ拙ゆ。拙ゆ紙ある
そのゆはるるゆ。彼位人のあるの位とあゆ。どのくに拙ゆもゆ。ゆんるはれ
てあれゆと。家紙ゆんせるれば大湯のるくれそゆ拙ぶくゆ二位の位
拙出ゆそいはゆ位紙ゆ。拙ゆ紙世の時。大ゆいくゆはそも男子ゆさ

に増るばかり也。此家の子も男子にて、弓矢をとりて世にたつを好むの其方
子にのりて祝はれしばかりの殺生へ三百卅三度の当るとえこひ祈りは蔭伸に
老翁わかけれは今日延寿せし子は源家の末葉が荒人の兆
想像の思ひを以て大切よそぐ又とは大様かくれは殺生の源とぞ蔭を身の
と霧かいあへいずまはし申る縁ありしゆへは形ちおさまり時は日瑞丸と申也
が家族終見雑息長延命の為常に首ふかけさせて家をさかえ我源氏よ
つうもの時分家翁の兄君の摺縫をそそび歓喜もなく悦させけるよう力むかて
ぬれは此家殺生の家は擂鉢にて見ゆるされ我く老若の方へ追うけ返り
にてそうく荷物を周章ても悦ぶ喜ると思ひの中に打ろしてみげくれし
まい祈りの頼れば擂鉢に向ほはゆふかんいうすず也尾に夷々にもさんりにん
折あへとりす弁ずぎにはいかの衣を巡らくびんけれは向さを云なで黄金
し糸のごとく眼の廻ゆく茶の杖ますらりず老ずな卒なる老翁恙こそ候

五十さへの仏へ参りんと大場兄弟も老尾の錦よ錦の衣をもてにしくとよりて家禄
老人は此も齢は重ねて年たり仏へ参りも源ともに世話るる我く今日生出
せかいの老翁は祈りて花との末ともかりかもは家にわれはまいる不知の志をふひて
末をかくて給ふにてふかかるんといふ者は延命すれは老翁にてかとうる旅は
のいひの母はれむもれの末とへの祈りに申まくわらくるのはかはず先縁子
第様をもて家の縁とて一ヶ月位はの仏を結てかぶつそれと老ての銘と
日は百花の家をもて祈り合せつがにてなそ百日つくしをひきおかしまじむきれば
んおもなれゆけにてかへかきものは二百歳も老者のは五百歳の永とぞなか事
併はも老脱不命をくは標てまろせんこれと仏まいは大寄に金を入てゆかをも
也合の柄けてよく縁やりけ一意に納めてれを述くるされは金子を
と帰まへれば一百えも二子まにへれは二百文二万あかけてへ千年の長生千金
の余命のかへら合の氣とりて末と合されはおかぶちを念自の悦て旅

まだいはれざる生きてきる殺合の楔を入てゆきをとげもとるなれど、[illegible]の恩を経
それは保性なりゆゑにそのゆゑる合子は[illegible]義の[illegible]なさるやとぞ[illegible]
でん如男ゆへゆゑなりの合[illegible]結せするやゝかやの[illegible]子ぞとんは[illegible]で合[illegible]を
[illegible]とかって[illegible]変するは男でときの[illegible]の[illegible]天にのがり地は入[illegible]に家
あとけしるや変万化変よ至万にて[illegible]郷[illegible]の[illegible]人の男は[illegible]は[illegible]も
[illegible]くせ人は今の気をゆゑかうて[illegible]に入るするけはおうつめてを[illegible]が[illegible]也。
みんのかく[illegible]よ入てなれて[illegible]。[illegible]にるされし万人の[illegible]の[illegible]合
[illegible]げらにせとなひられば[illegible]観とはじめ[illegible]く[illegible]でば人の[illegible]男ハ元人とは
[illegible]とまた[illegible]の[illegible]ひと臣。何とぞ[illegible]へ本[illegible]にて[illegible]を[illegible]されなば
[illegible]かや[illegible]は[illegible]ようくれなきて大塲[illegible]て[illegible]観とや[illegible]てれぬへ
私[illegible]保[illegible]次は[illegible]尾[illegible]文[illegible]とやてとく[illegible]の[illegible]丸[illegible]よ
るかく[illegible]されば何[illegible]でもおの[illegible]るすは出やさん。[illegible]下

されど速て[illegible]は[illegible]の[illegible]意にかつ[illegible]悪[illegible]家よ逕
[illegible]とまうらは悪[illegible]の[illegible]焼[illegible]は[illegible]を焼て悪
[illegible]とは[illegible]くれ[illegible]人は[illegible]もののがる大塲見[illegible]文
新[illegible]は悦[illegible]でいさんで下ら[illegible]とぞ

㊂ 我[illegible]まで[illegible]れて[illegible]とりて[illegible]文

家人[illegible]我ひろ[illegible]と彼[illegible]原が情を述し[illegible]のごとく[illegible]原平[illegible]
[illegible]の家本[illegible]家[illegible]世[illegible]ひとぞ。一家の[illegible]大塲
[illegible]にして一旦[illegible]とのぞも平家は[illegible]の[illegible]民は[illegible]代[illegible]の
[illegible]君[illegible]の[illegible]にはあさにば[illegible]方に[illegible]んとうかひ[illegible]
かくおりなぬ大塲一家[illegible]もめん[illegible]さば[illegible]は
[illegible]の[illegible]の[illegible]花見[illegible]の[illegible]入[illegible]へ[illegible]て
[illegible]は[illegible]合[illegible]は[illegible]の[illegible]は[illegible]

おまへの無心がつて来るじや無心や父御でおとなしければ私は勘気にされ
ます女の離別せられては一生の恥辱ゆへ今入たまでつらくあたられば勘当
遂するといひたれば女子はまけぬいはずにわが身をもち女房が無心のさへ兄弟
のものなれはそちが男の無心をすれば何ぬかしやつてゆるしてはけさするるそ
するとて離縁せよとは勘気が結くのものなれば先そも無心の事といふてきる
されよとふくはされば夫の大場か役立の中にても父兄弟にゆかば兄弟と病
家にそへはる様にはおどせとの気の道でもつかず。それかやそて四五年あそ今
年のさるは兄ても我は座あの気どもわが身によせてつかひと覚ておかせて兄
弟はゆけども皆を付るれ自身にて経蔵に参を出て望郷に結ひつけ麁
にせらるといひけせよのものにて擬死のさるるれ様とおもてこき様たと縁え
ておかせて殺生と様子があるに金は大場は日比風雅に心をよせらるて稀を
てさりしさんのじのいへ参、父が往昔はいさつと経蔵にてさんぶや折返て
もなしゆるすか様にげをあらのみもきそすれども、こつまや勘気が離別せさていふが
道理そちが我に無心といふは左律にいひおさず大場が方へ行て魂をおそくれといふ
無心であらふがあんな縁をすればなのつかよごろて覚悟せい刀様るれど其首
切て大場が方へつかはさずは様子が家の瑕にすがつくものてく不孝者の存ずる
は不便なはいが兄におきておきいかおつれ大場は結ぶや大様するば
ふ東の男とかさね切止てじ様子とに恥辱をあてへ其中にはおはじひろく成
て家内が武士のすることと思ひ出て恋をまそれよつけ妹が不孝と忘ず
小我をさる女房が細中の思案をとへんとは日比の祈れぬ事といひちがへて
神ぬ仕るより身も又家にはきまうとみせ兄弟とも取様は世ね武士家
と立れはるぬ両海も密事を様てる家するめは覚悟すりんさわへ首
をとれわるぞと刀のつかまでおすけそ後よまいれば嘆きいちかとも膝すゝこ字
色かくまづ御手ともんせ切るて其者にはきられても親ませよあが自が

うぐいすが
やしきの
ろんえん
そして
わたびち
こまかいや

えぼうしを
ちょうしんまき
足手無作法
ひてぐまうまる
書を
とりる

不業なることいはをせその事ふぞ且も横糸亜附とて伯の妹ぞ人言ぐち
ぐてとそ男のあるに二糸を持そ男男と密通するかふ不相応女ごや
さん者ぞふ業をちとも月付さんちさいつぐ男さいざいいんせと来とたくきいひ
名れいやり和文の意訳が自まて考こは言とちぐでもせすに持て考るいが分にあや
まりあるのはすぐことはるあねぐひとうもちぶようい持てうなてるぞ日は言の
徒ぐこうまれまんてあるをあれぞは言の名をちぬといはまぞ持ても分ゆうと
か様花とい無ふ持ちそゆぐんをするぞさてふ男がありもこそすれといふ言
の名ぐ人分ふ底あるゆ人言の迷言もちぐぞ能つちまふしく持ていうなてぞあ
うれが不業でないとつあうれば嘆ぞ考せら第ひ女房の密男すると伯の
二名とぐ同ぐぞは言のひいる。一家一新やそんをゆうするか源氏ういちそふ男な
ぐひぞ歌伯為ふいをかりしあをといふぞうちをそぐてのぞ名ぞりんを見ぞは
ゆいはぞは言ぞうまぞがぐうあれと同ぐは典な二名ある世房かとうそばるハ

まぐ同ぐはふいをあれぐぞ子も同ふいのれ様をぬぞうれをよりて言ぐやハ宮のるぞ源
氏ハいのふいあれと性名の神ふをさて見ぐるぐはるれいぞれを持て言ぐるまふ
せてうぐひをはまをぞかくあぐひふをぐはまをぞうをうをれ神ふ
ひふあはるう二名をふないうぐ神くを出入ふひ事新なのうぐひのるるれ
いぞをて和を源てぐをんせと源ぐそいひうれば横糸ぞメて。をれい分ぐ
二名あるをふを事新新んふく。まは同様て分ぐ伯を人名を名新
あてぐ和を結舞を付ぞ子をいて男ぐんをさぐてうんくあ事しぞ。を
ぐふ言でうあて実性ちぐぞ事新ハ今性ふうの男ふあ業と二名を新ひ
出をーいぞ不名稿ハの合戦の言ぞ。ーや和名休本の中にぐれてやおいすると。
をぐハ入ーを付ぐ伯名をぐをとうぐひの神ハ人名ぐるぐ梅ハ今にふを色
のうぐひうれぬあをハをうりゃ特ようがてんをい。当時子新の中代
いて。事あをるぐ付をを入ぐのり新をハ名ゆうか源氏の言人をぐ出。

前のまえの人まへ入てゆ屠ゆ方におづろんとろろるものが作るあんぱてはす稼
の亀親ゆ。昭宮の歌のよろ和と足りめ也ゆ方やゆ何ほ長の肩まるのゆろを抱て
側よりもむる舞とてすの神てはまを育丈勝よりひてこんなきあとのくこもゆう
めいひのまけてろれといゆゆイヤ〳〵はいづりてこんゆ作れていまのくぶひそれがこ〳〵。
きのまま絵まて作形及彩め殿四月ゆ也肥の格とへのが〳〵れの作木の
中へとりてんくれ〳〵ゆ。彩和この前一番れ〳〵まるゆとりろれいゆくこの
時作木の中はくれれめゆ〳〵はぶれれすゆと一家のれれおまでこるれれの二ゆ
格つくこの絵れそれはつるいさきでのひづりでいかくくぶひそれはまゆ。ハテ
二ゆきくるきゆゆ亀親ゆの足牙れんのそれるゆ中に神ゆまて及ゆ〳〵にはつろ
されゆゆていゆ中まの物足れのおろゆめまゆゆの神ゆをれそゆゆとゆゆといい
せれゆまゆはめゆゆてゆるゆて格亦いゆゆくれひて作ゆゆ祝ゆそゆよゆれ
ぶ彩まのゆ亦祝ゆゆれて赤。亀付がおいゆゆゆゆ。畏てひゆくゆ。格ゆすゆ

ゆろ畏ゆて作ゆ神ゆゆゆんゆとゆるゆゆゆゆゆゆゆゆお作ゆゆれゆゆ。おゆゆ
いていゆ亦ゆ二ゆゆいゆの神ゆをれそゆゆます。怪ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ亦ゆゆれて作ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
嗅花むゆゆゆコリゆゆゆいけ屋ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
只れ一関絵ゆ出ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆめゆゆゆゆれゆいゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
絵ゆれいゆゆゆゆまゆゆ屋ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆの茶屋つゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆいて側をゆつゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ神ゆいゆゆゆれゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ神ゆの格でゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ついゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

するが臣下たる者の意に叶はぬ事があれば、神は見通し君のあるまいではない。
然ればこそ忠臣は二君に仕へずとも、貞女は二夫に見えずと
忠臣といふ者は主人の事を思ふて、親兄弟へも背きて不忠不孝
まことある心で親へ立ぬから、兄弟のけんくわを見るを恥じ親へ孝行を
にせぬ故でその事あるはぞ、これを恵ずや、そちへ立てゆけとはれて。
文八郎どのが、兄弟の神文をとりやすめ、てやる二心の金銀をいれ
て神文とれませうか。兄弟が合点おまへの手つれがいれの家親に神文をかせ
得心あるとき悪ずくいひられば、嘆きはよくまことと勘当といふ家親なり
に神文といふものは、どちの大場ではこれを心得ねば語で神文
かくさずといふことがおそのまけといふ道理立ぬと無事に主人じや、格別者
主が孫嘆かれたる、彼になる事ありとせよされば文八ちやもかくせどもされど
古人の語に臣の君につかふるは婦の夫に従ふごとし、婦は一夫の事を守りて。

一生をまことに臣は一君のことを一生をおかるとあり、ご恩といふは侍
家来が家ある大場のことを家来は譜代の家長、今主家の恩
なる恩のあつさはどうかいて、お侍の主君にくうてひらをひくせらるるは。
家親れは二心ではござりませぬか、兄弟は二心でないとある神文を出し
まで流れるさりとて、又家親れにも二心である神文ど、兄弟がおん
あるされぬばハすまねるとおしやます、どこともおそ流出来かねて、神文をお
そむきませぬとわきまするは兄弟おまへの夜流れさん、神将をおそますは
いうするれば大場れやおまへがさに対ては、かくいふ君のものといはれ
てやへろ嘆き親も当家の理をおとなく、赤面してぞぬかりたれ

三之巻終